

令和4年度

学校図書館の活用にかかる

実践事例集

岩手県学校図書館協議会

実践事例集の発刊にあたって

岩手県学校図書館協議会 会長 照井 大道

この度は、関係者の皆様の多大なるご尽力をいただき、岩手県学校図書館協議会の研究活動振興事業の一つである、「学校図書館の活用に係る実践事例」について発刊できますことに、厚く御礼を申し上げます。

今年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないまま、その対応に明け暮れた一年となりました。このような困難な状況の中、各地区や学校等における工夫や連携体制をもとに、学校図書館教育に取り組んでこられた関係者の皆様に心から敬意を表します。コロナ感染症対応も既に3年目となりましたが、通常の事業推進を行える日が少しでも早く来てくれることを切に願わずにはられません。

さて、今年度も実践事例集に、各地区SLAより「読書指導」「情報活用」「学校図書館運営」の各領域から、優れた実践をお寄せいただきました。学校図書館が、本が好きで本を読みに来る子どもたちのための図書館、授業で活用し学ぶための図書館、情報を検索し必要な情報を得るための図書館という役割を果たすために、これら各校の実践を参考としながら、学校図書館づくりのヒントを得ていただければ幸いです。

令和5年2月には岩手県教育委員会から、改訂版「いわての小学生のためのおすすめ図書100選（いわ100キッズ）」が、各小学校等に届いたと思います。この改訂版なども、学校・家庭・地域の様々な場面で活用していただくことで、いわての子どもたちの読書活動が一層活発になることを願っております。

結びに、本実践事例集の作成に当たり、実践をお寄せいただいた各学校の先生方や司書の皆様、今年度の事業の推進にご協力を賜りました関係の皆様に感謝と御礼を申し上げ、発刊にあたってのあいさつといたします。

目 次

◆ 小学校 ◆

- 「子どもたちの読書意欲を高める取組を目指して」
盛岡地区SLA 盛岡市立桜城小学校…1
- 「読書指導の充実のために」
岩手地区SLA 岩手町立沼宮内小学校…2
- 「本に親しむ子どもの育成を目指して」〈読書指導〉
八幡平地区SLA 八幡平市立大更小学校…3
- 「読書指導の充実を目指して」
雫石地区SLA 雫石町立西山小学校…4
- 「豊かな読書生活の充実を目指して」
紫波地区SLA 矢巾町立不動小学校…5
- 「児童が意欲的に読書活動や学習活動に取り組むための学校図書館の活用について」
花巻地区SLA 花巻市立花巻小学校…6
- 「子どもたちを読書に親しませる工夫」
遠野地区SLA 遠野市立遠野北小学校…7
- 「読書活動の充実を目指して」
北上和賀地区SLA 北上市立いわさき小学校…8
- 「進んで読書に親しむ児童を目指して」
胆江地区SLA 奥州市立胆沢第一小学校…9
- 「学習と関連させることで充実した読書活動を促進する取組」
一関地区SLA 一関市立新沼小学校…10
- 「読書活動の充実を目指して」
陸前高田地区SLA 陸前高田市立竹駒小学校…11
- 「豊かな読書活動の展開」
大船渡地区SLA 大船渡市立綾里小学校…12
- 「読書に親しむ児童を育てる取り組み」(読書指導領域)
釜石・大槌地区SLA 大槌町立吉里吉里小学校…13
- 「心豊かで創造性のある児童の育成を目指した学校図書館教育について」
宮古地区SLA 宮古市立宮古小学校…14
- 「読書への意識を高める読書活動の工夫」
岩泉地区SLA 岩泉町立小本小学校…15
- 「読書に親しむ児童を目指して」
久慈地区SLA 洋野町立宿戸小学校…16
- 「児童の興味関心を高める読書環境を目指して」
二戸地区SLA 二戸市立中央小学校…17

◆ 中学校 ◆

- 「読書に親しむ生徒を目指して」
盛岡地区SLA 盛岡市立下小路中学校…18
- 「読書活動の充実のために」
岩手地区SLA 岩手町立沼宮内中学校…19
- 「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)
八幡平地区SLA 八幡平市立松尾中学校…20
- 「生徒の主体性を生かした読書生活のデザインと横断的指導の実際」
雫石地区SLA 雫石町立雫石中学校…21
- 「読書活動の充実を目指して」
紫波地区SLA 紫波町立紫波第三中学校…22
- 「読書に親しむ生徒を目指して」
花巻地区SLA 花巻市立東和中学校…23
- 「生徒と共につくる読書環境づくり」
遠野地区SLA 遠野市立遠野中学校…24
- 「生徒会図書委員会を中心とした読書推進活動」
北上和賀地区SLA 北上市立東陵中学校…25
- 「図書委員の活動を中心とした学校図書館の活用」
胆江地区SLA 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校…26
- 「図書館教育の実態と課題」
一関地区SLA 一関市立東山中学校…27
- 「学校図書館の利用数増加を目指して」
陸前高田地区SLA 陸前高田市立高田東中学校…28
- 「読書意欲の喚起につながる環境の整備」
大船渡地区SLA 大船渡市立東朋中学校…29
- 「生徒の読書意欲の向上を図る取り組みを通して」(読書指導領域)
釜石・大槌地区SLA 釜石市立甲子中学校…30
- 「読書に親しみ、その魅力を体験的につかみとる ～豊かな心を育てる読書センターとして～」
宮古地区SLA 宮古市立第一中学校…31
- 「生徒主体の読書推進活動と、読書への親しみを図る取り組み」
岩泉地区SLA 岩泉町立小川中学校…32
- 「みんなでつくる田野畑中学校図書館 ～持続可能な学校図書館運営を目指して～」
田野畑地区SLA 田野畑村立田野畑中学校…33
- 「魅力ある図書館を目指して」(図書館運営)
久慈地区SLA 久慈市立山形中学校…34
- 「読書活動の充実を目指して」
二戸地区SLA 一戸町立奥中山中学校…35

「子どもたちの読書意欲を高める取組を目指して」

盛岡地区S L A 盛岡市立桜城小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数321名で、蔵書冊数は、おおよそ8300冊である。1日の平均貸出冊数は170冊で、多くの児童が図書館を利用している。図書担当と図書委員会（5・6年児童16名）と図書ボランティア31名が協力しあいながら図書館を運営している。図書貸し出しは、月曜日から金曜日の朝・業間・昼休みに行っている。学級の児童全員が座れる椅子があり、借りた図書の題名をファイルにすぐ書き込むことができるようにし、利用指導に生かしている。



2 具体的実践内容

(1) 読書意欲を高めるために

自分が借りた図書の題名を読書カードに記録したファイルを次学年に引継ぎ、6年間の宝物とする。学年を修了するときに、読んだ本の種類、読書冊数を振り返る。冊数の年間目標は、低学年が100冊、中学年70冊、高学年40冊で、12月までに超えられるように指導している。達成した児童は、図書館前の掲示板に名前の掲示をしている。

(2) 朝読書タイム

月・金の8時10分～25分（15分間）を読書タイムとしており、学級文庫や図書を読む時間としている。

(3) 必読図書（さくらセレクト）への取組

児童に読んでもらいたい本や質のよい本を選定し、必読図書「さくらセレクト」としている。低学年25冊、中学年15冊、高学年10冊と設定し、6年間で100冊読むよう取り組んでいる。

(4) 読書月間の取組

図書委員会の重点取組として、たくさん本を読む月を設定し、多くの子ども達が図書に親しむことができるように、図書委員会が作成した「読書すごろく」に取り組んでいる。図書委員とのジャンケン大会もあり、勝つともらえる2冊券を楽しみにしながら、児童は意欲的に本を借りている。

(5) 図書ボランティアとの連携

図書ボランティアが、月2回木曜日に図書館で活動しており、環境整備と配架、本の修理を行っている。季節に合わせた掲示やクイズがあり、子ども達が図書館に興味をもち、利用することにつながっている。また、ボランティアの「ヨムヨム隊」が、月1回朝読書タイムに学級で読み聞かせを行っており、子ども達は、この時間をとても楽しみにしている。

(6) 図書館利用指導のために

貸し出し開始前に、全学級で学級担任が図書館の利用のしかたを紙芝居で指導した。約束事が徹底され、本棚の乱れが少なくなった。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・読書目標の達成者を掲示することで、本をたくさん借りる児童が増えた。また、必読図書「さくらセレクト」を借りて読むことで、様々なジャンルの本に親しむことができるようになった。
- ・図書ボランティアの協力により、図書館運営がスムーズに行われている。

(2) 課題

- ・読書に興味をもてない児童が、さらに読書に親しめるような取組を計画する必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数250名である。今年度は、図書室を含む校舎内の大規模改修工事のため、図書室は広めのホールを使用し臨時の開館となっている。臨時の図書室には書架が少ないため、外部からも書架を運び、なるべく多くの本を揃えられるように努めた。それでも補いきれない図書については、移動図書館の「おおぞら号」から学級文庫に借りたり、町立図書館から借りたりして児童や担任のニーズになるべく添うようにしている。

2 具体的実践内容

(1) 蔵書を充実させ、多くの本を読んでもらうために

週末や連休前は複数冊の貸し出しを行っている。また、新しく本を選ぶ際は、図書委員会、教職員、図書支援員だけでなく、読み聞かせボランティアグループの方々の意見等広く取り入れたり、最近話題になっている本を検索して購入したりするなど、多くの子どもたちが手に取りたくなるような本を選ぶように心掛けている。

(2) 長期休業中の読書充実のために

夏休みに向け、図書室から各自5冊の本を貸し出した。選書の際には、担任から様々なジャンルの本を選ぶようにアドバイスを行った。また、夏休み中の多読を目指し、「夏休み読書チャレンジ」に取り組んだ。目標冊数は一律にせず、学年や自分で目標を設定し読んだ本をカードに記入した。夏休み明けにはカードを回収し、図書委員会が目標達成者の氏名を公表した。ほぼ全員が目標達成できた。

(3) 読書量を増やし、さらに幅広いジャンルの本を読んでもらうために

全国読書月間に合わせ、図書委員会が様々なジャンルの本からクイズを考え、「図書クイズ」のイベントを行った。難しい問題も何題か組み込まれていたため、友達と一緒に考えたり、図書室に行って調べたりする児童の姿が見られた。

3 成果と課題

(1) 成果

図書室の規模は縮小されたが、児童の貸し出し冊数は増加傾向にあり、普段手に取らない本にも興味をもつ児童が増えてきている。

(2) 課題

図書室内に、椅子や机の設置ができずじっくり落ち着いて読める場所が無いのが残念であるが、来年度は改善される予定である。



【図書委員が作ったクイズとポスト】

「本に親しむ子どもの育成を目指して」〈読書指導〉

八幡平地区 SLA 八幡平市立大更小学校

1. 学校図書館の概要

本校は創立 149 年になり、古い伝統をもっている。戦前より、近郊近在の中でも大規模校であることから、常に中心校としての役割を担ってきた。近年、少子化等により児童数が減少している。蔵書数は、約 9,000 冊（学校図書館図書標準の達成状況は 99.5%）で、地域の方からの寄贈もあり、充実している。本年度は、「読書目標冊数の達成→たくさんの本と出会いで、知識を増やすと共に、心を豊かにすること」「みんなの読書（6年間で100冊）の取組の定着→学年に応じた内容の本を読める子を育てること（読解力の育成、語彙を豊富にする。）」を目指して、指導を行っている。

2. 具体的な実践内容

（1）全校での取り組み

①計画的な読書時間の確保

・朝読書、隙間読書、昼食後読書、週末読書、長期休みの家族読書等の設定を行う。

②学年に応じた内容の本の紹介（令和3年度からの取組→本年度2年目）

・図書司書により学年に応じた本（みんなの読書、学級文庫）を選定し、児童に紹介する。

③学期ごとの読書冊数の調査と表彰

・学期ごとに読書冊数の調査を行い、児童の実態を明らかにするとともに、読書指導に活かす。

（2）図書委員会による活動

①読書祭りの取組（6月、11月）

・読書ビンゴ、図書郵便、読み聞かせ等の企画を行い、読書への関心を高める。

②みんなの読書達成者紹介（放送、掲示）

・昇降口委員会掲示板に「読書の木」に名前を掲示したり、放送で紹介したりして称賛する。

（3）図書館司書による活動

①図書館の整備（本の購入・廃棄・修理・配置・掲示作り等）

・児童の読書傾向をおさえ、学年にふさわしい本を選定したり、利用しやすいような本の配置を行ったりする。

②専門性をいかしたレファレンス、企画の提案

・担任や児童の要望に応じて本を提供したり、より本に親しめる企画の提案をしたりする。



3. 成果と課題（成果→○ 課題→△）

○年間読書冊数を達成している児童が増え、多くの本を読む習慣がついてきた。また、100冊読書の活用を促すような、本の置き場や掲示を工夫し、みんなの読書の取組も昨年度に比べ、増えてきている。

○学期末に読書冊数調査を行うことで、全校の読書の傾向を把握し、指導に活かすことができた。

△さらに学年に応じた内容の本を読めるように、みんなの読書の取組の工夫をしていく。

「読書指導の充実を目指して」

雫石地区 SLA 雫石町立西山小学校

1 学校図書室の概要

本校は、全校児童139名の中規模校である。学校図書館は2階に設置しており、子どもたちがのびのびと読書ができるよう、机やイス、カーペットを敷いた床などを設備している。また、1階の低学年教室前のフリースペースには、絵本や紙芝居などの蔵書をおいている。本の貸し出しは、図書委員会を中心に、毎日昼休み時間に行っている。

2 実践内容

(1) 読書目標の設定

1年間の図書室利用目標冊数（低学年100冊、中学年55冊、高学年45冊）を設定している。また、年間目標に向けて各学期にも目標冊数を設定している。各学期の終わりには児童それぞれの取り組み状況を記録している。

(2) 家庭との連携

学びフェストで「すすんで読書する子ども、楽しんで読書する子どもを育てること」を掲げ、週末には読書の宿題を位置付けている。また、雫石町全体で夏季休業と冬季休業で親子読書に取り組んでいる。

(3) 読書月間の実施

図書委員会を中心に6月と11月に読書月間の活動を行っている。低学年は10冊以上、高学年は累計600ページ読むという目標を設定している。目標を達成した児童には、多読賞の賞状のほかに、今年度は図書委員会の児童が本の帯を使って作成したしおりをプレゼントした。



(4) 図書ボランティアの活動

地域の方々が「なつめお話の森」というグループで図書館の環境整備や毎週金曜日の朝に読み聞かせを行っている。また、学校図書館支援ボランティアの「しずくいし図書隊」の方々が、2か月に1回程度、本の修理や本棚の整理整頓に来てくださっている。



(5) 雫石高校との連携

本年度、雫石高校の図書委員会と連携し、本のカバー掛けや高校生による読み聞かせを行った。

3 成果と課題

○読書月間や読み聞かせなどの取り組みを通じて、読書を身近に感じたり、たくさんの本に触れたりすることができている。また、地域と連携して読書活動の充実に取り組むことができた。

▼図書の新着などの環境整備について、すぐ行うことができるような仕組み作りが必要である。また、地域ボランティアや雫石高校との連携を継続して行えるマニュアルが必要である。

「豊かな読書生活の充実を目指して」

紫波地区 SLA

矢巾町立不動小学校

1 学校図書室の概要

本校は、全校児童 178 名の中規模校である。学校図書室は 2 階にあり、すべてデータベース化されている。蔵書数は約 7 0 0 0 冊で、開館は業間休みと昼休みで、図書委員会が本の貸し出しや図書の整理などを行っている。また、図書事務補助員（各週勤務）を中心に、季節を意識した図書室整備や、新刊図書の設置の工夫など、児童が楽しく利用しやすい環境づくりに努めている。



【図書事務補助員による環境整備】

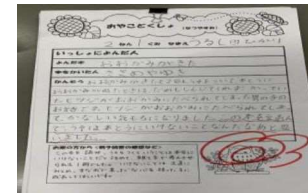
2 具体的実践内容

(1) 読書目標の設定

年間目標冊数（低学年 8 0 冊、中学年 5 0 冊、高学年 3 0 冊）を設定している。学年末に多読賞を紹介し、上位 3 名の表彰を行っている。

(2) 全校朝読書

毎週月曜日の朝、8 時 1 5 分からの 1 5 分間を全校朝読書の時間としている。じっくりと読書に取り組んだり、読書の幅を広げたりする時間として効果的に活用できている。



【親子ふれあい読書】

(3) 学級文庫の設置

学級名義の貸し出しカードを活用している。児童が興味のある本を選んだり、担任が学年に適した本や教科書で紹介されている本を選んだりしている。



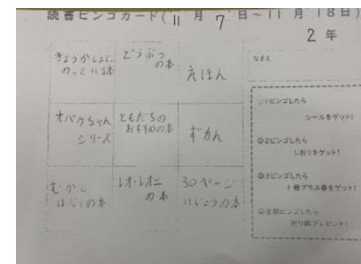
【委員会活動】

(4) 親子ふれあい読書

長期休みの読書を推進する目的で「親子ふれあい読書」に取り組んでいる。親子で同じ本を読み、感想を書いて交流する機会としている。

(5) 読書月間の実施（1 1 月）

読書月間には「読書ビンゴ」を実施。図書委員が各学年に読んでほしいジャンルを選びカードを作成する。また、読書集会を行い、図書クイズや読み聞かせをし、図書への関心を高める取り組みをしている。



【読書ビンゴカード】

(6) 図書ボランティアの活動

例年、PTA 読み聞かせボランティア「お話マロン」による読み聞かせを行ってきたが、近年感染予防のため活動を自粛している。児童は活動再開を心待ちにしている。

3 成果と課題

<成果>

- ・学級での指導、委員会活動、図書事務補助員など、それぞれの立場での活動が充実しているため、図書室を訪ねる児童も増え、学習の合間「すきま読書」をする習慣が身についてきている。

<課題>

- ・読書範囲を広げるために、様々なジャンルの本に親しめるような取り組みを工夫していく必要がある。

「児童が意欲的に読書活動や学習活動に取り組むための学校図書館の活用について」

花巻地区S L A 花巻市立花巻小学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童264名の学校である。図書室は校舎の2階中央にあり、どの学年も利用しやすい位置にある。童話作家である宮沢賢治さんや柏葉幸子さんの母校ということで、図書室には、特設コーナーを設置している。



2 具体的実践内容

(1) 読書指導

毎日5分間の朝読書に取り組んでいる。全校で静かに集中する時間になっている。進んで本を借りて図書室に来たり、隙間時間に読書に取り組んだりすることにつながっている。

長期休業中には、親子読書に取り組んだ。「家族といろいろな本が読めて楽しかった。(低学年児童)」「読んでいる本から子どもの成長を感じた。(高学年保護者)」等の感想が寄せられた。

また、図書ボランティア「ぐ〜るぷ・ぐるぷ」が、月2回程度、読み聞かせを行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、PTAデジタル推進部と連携してオンラインで実施した。高学年の児童も関心をもって聞いていた。

(2) 委員会活動

貸出のお世話や図書の整理の他に、おすすめの本を紹介したり、スタンプラリーや手作りしおりプレゼント等を行ったりしている。図書委員会がすすめるには、興味をもつ児童が多く、いつも貸し出し中である。



(3) 資料の充実

利用頻度が高い図書は破損しやすいため、図書ボランティアが定期的に修繕を行っている。また、花巻中学校区教育振興協議会花巻小学校支局から読書活動推進費をいただき、宮沢賢治さんの童話や伝記、各教科等で活用する調べ学習用の資料の補充に当てている。柏葉幸子さんからは、毎年、図書を寄贈していただいております、特設コーナーの充実につながっている。

3 成果と課題

(1) 成果

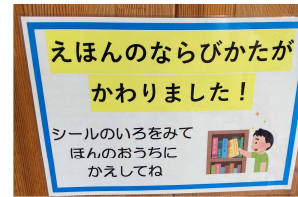
- ・ 朝読書や委員会活動を充実させることで、児童が意欲的に読書に取り組むことができた。
- ・ 図書ボランティアや教振との連携で、児童の読書意欲の向上や図書室整備の充実を図ることができた。

(2) 課題

- ・ 図書が棚に入りきらなくなっている。破損の激しいものや資料価値の低いものは廃棄し、より使いやすい学校図書館を目指したい。
- ・ 図書台帳がまだデータ化されておらず、図書管理や検索が難しい。図書管理ソフトの導入やバーコードリーダーの配置が決まり、3学期に設置される予定である。速やかに準備を進め、円滑な図書館運営に役立てたい。

1 学校図書館の概要

今年度の児童数は268名、全13学級である。校舎2階に図書館がある。市立図書館から「やまどり文庫」を学級毎に80～150冊程度ずつ分架し年3回交換を行っている。児童会図書委員が休み時間の貸借を行い、授業の調べ学習などでは担任が貸し出しを行う。PTA 図書ボランティア「エプロン」と連携し下記のような様々な活動に取り組んでいる。



2 具体的実践内容

(1) 図書室の環境整備

児童が利用しやすいように図書室の整備を継続的に行っている。

まずカウンターと机の移動を行った。それから十進分類法に沿った

分かりやすい配架をし低学年が借りやすいよう9類から絵本を分けて別置を行った。

以前は書棚が高く本が手の届かない位置にある状態であったため、廃棄を進めて蔵書整理を行った。さらに棚を増設し全ての本を低い位置に配架した。これは児童が本を手に取りやすくなるとともに地震対策にも効果的であった。

(2) 全校一斉の朝読書や週末読書の取り組み

毎週金曜日の朝活動は読書とし、15分の黙読をしている。読みたいときにすぐに本が出せるよう常に本バックに入れ機の横にかけることで隙間時間での読書にも活用されている。また週末にも本を持ち帰り学習カードに読書チェックを入れるようにしている。

(3) 図書委員会による読書啓発活動

①一年生への読み聞かせと図書室利用の補助

「エプロン」と連携して朝の活動時間に一年生に読み聞かせを行っている。また、図書室に来館したときに本を探す手伝いをし、新入生も図書館を利用しやすい環境作りに努めている。

②読書週間の実施

5月は図書クイズを実施し、6月と11月には読書週間を設けている。読んだ本の数だけシールでぬりえをする、たくさんの種類の本を読むビンゴカードをつくるなど、本に親しむ取り組みを行っている。

③多読賞・目標達成賞表彰

学年毎に、学期末多読賞表彰を行っている。年度末には年間多読賞の表彰も行っている。また、学期ごとに学年の目標冊数を決め「たくさん読んだで賞」を渡すことで、多読への意欲喚起を図っている。

(3) PTA 図書ボランティア「エプロン」による多様な図書活動

①朝の読み聞かせ

年間を通じて学年毎に「エプロン」による読み聞かせを行っている。年度始めに学年や特別支援学級の実態に合わせて、時期や回数を計画し実施している。

②季節の掲示や学校行事への協力

図書室前などに掲示をしている。本の紹介だけでなく、児童が季節を感じ、ことばの感覚を磨くような内容になっており、図書室の利用促進だけでなく感性を育む掲示となっている。図書委員会が行う取り組みの景品づくりや卒業生のプレゼントにしおりづくりも行っている。

③本の修繕・コーティング等

壊れた本や背表紙の薄くなった本の修繕やコーティング等を行っている。児童が図書室利用をしているそばで修繕していただくことで、本の大切さを感じ考えるよい機会となっている。

3 成果・課題

(1) 成果

図書委員会や「エプロン」の活動によりコロナ禍で予定が錯綜している中でも本に親しむ機会を設けられた。

(2) 課題

タブレット学習が始まり週末に持ち帰るものが多くなった。家庭への本の持ち帰りに工夫が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童95名の小規模校である。学校図書館は、1階玄関ホール前に位置しており、どの学年も利用しやすい位置にある。蔵書冊数は約7200冊である。開館は、業間休みと昼休みで、図書委員会が本の貸し出しや図書の整理などを行っている。また、学期に1、2回市立図書館からの団体貸し出しを利用し、各学年に50冊の配架を行い、朝読書や休み時間、すき間時間を利用し読書活動を行っている。さらに、図書ボランティアが、月2回朝の読み聞かせ活動を中心に、季節を意識した図書室の整備などを行い、児童の読書活動が豊かな環境づくりに努めている。



2 具体的実践内容

(1) 学校・学級の取り組み

①読書目標の設定

1年間の目標冊数（低学年120冊、中学年80冊、高学年60冊）を設定している。11月の読書月間に読書冊数学年トップの児童の表彰、年度末には目標冊数を達成した児童に多読賞を賞状として渡している。学期ごとに自分の読書冊数を確認し、目標を意識して読書に親しんでいる。

②朝読書の実施

毎週月・水・金曜日、10分間の朝読書を位置づけ、全校で読書活動を行っている。

③親子読書の推進

6月の読書月間と長期休業中に、親子読書カードを使って親子読書に取り組んでいる。親子で同じ本を読み感想を伝え合う、親子で読書時間をもつ、読み聞かせをしながら親子で本に親しむなど、各家庭の考えに合った形で取り組んでいる。

④週末読書の推進

金曜日や連休前は貸し出し冊数を2冊とし、週末読書に取り組んでいる。読んだ本を記録したり、一言感想を書いたりするなど、学年に合わせて取り組み方を工夫している。

⑤学級文庫の設置

教科書の改訂に伴い、教科書で取り上げている図書を優先的に購入し、ブックトラックに並べ学年ごとに配架している。並行読書に取り組みやすい環境を目指し、積極的な活用を呼びかけている。

⑥図書ボランティアの活動

月2回朝の読み聞かせ活動を中心に、季節を意識した図書室の整備、本の修理などを行っている。

(2) 図書委員会による活動

①読書月間の実施（6月、11月）

6月…読書の幅を広げる取り組みとして、様々な本に親しめるようなビンゴカードを作成する。ビンゴが揃うと図書委員会作成のしおりをプレゼントしている。また、親子読書と並行して、全校児童が「おすすめの本カード」に取り組み、図書室前に掲示する。

11月…おすすめの本カード（各担任が選んだもの）を達成すると、図書委員会作成のビンゴカードに進める。どちらのカードも達成すると「プラス1冊券」がもらえ、年度内の好きな時に使えるようにしている。全校が参加する「図書祭り」では、各学年トップの多読者を表彰したり、楽しい読書クイズに絡めて図書委員会のおすすめの本を紹介したりする時間を設けている。

②おすすめの本コーナーの作成

月1回ごとに、各図書委員がポップを作成し、様々な本を紹介するコーナーを設置している。

3 成果と課題

○学校経営の中に、読書指導・図書館利用を位置づけ年間を通して学年に応じた指導を行うことで、読書に親しむ児童が増え、読書量が向上した。

△図書ボランティアの活用の充実を図り、より一層の図書館環境づくりを目指したい。

1 学校図書館の概要

本校は学級数 13 学級(特別支援学級 3 を含む)、児童数 269 名の小学校である。蔵書数は約 11,600 冊。学校司書 1 名が、週 3 日勤務している。中休み・昼休みは図書委員会の児童が貸し出しを行い、朝・授業中は学校司書または担任が対応している。時期にもよるが、週に 1 回ほど地域コーディネーターや学校ボランティアの方々が来校し、季節の装飾、図書の修理などの環境整備活動をしてくださり、季節を感じられる明るい図書室になっている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書、15分読書の推進

水曜日の朝活動の時間を「全校読書」の時間として設定している。また、毎日 15 分読書に取り組めるように、各学年音読カードに 15 分読書の項目を設けている。さらに休日や小中合同ノーメディアデーの期間は 60 分読書を目標に取り組んでいる。

(2) 図書委員による活動

①読書週間の取組

6 月と 10 月の読書週間に合わせ、読書ビンゴ、読書クイズを企画し、図書館利用を呼びかけている。読書ビンゴでは、多くのジャンルの本に親しんでもらおうと「本の題名の頭文字」「分類番号」を書いたビンゴカードを作成し、全校児童に配布している。読書後にビンゴカードにスタンプを押してもらい、ビンゴを達成したら、図書委員が作成した景品を渡せるようにしている。どの学年もビンゴを達成しようと意欲的に取り組んでいる。さらに 6 月の読書週間では図書委員が 1 年生におすすめの本の読み聞かせも行っている。

②全校児童によるおすすめの本の紹介

全校児童に葉書程度の大きさのカードを配布し、おすすめの本の絵や簡単なあらすじを書いて紹介してもらい、夏休み前に渡り廊下や階段など目にしやすい場所に掲示して、いろいろな種類の本に興味をもってもらえるようにしている。



(3) 多読賞の表彰

年間読書冊数目標を達成した児童に記録賞、各学年でたくさん読書をした児童に多読賞の表彰をしている。図書館だよりなどで紹介し、家庭にもお知らせしている。

(4) 特設コーナーの設置

学年ごとに読破を推奨されているおすすめの本のほか、利用の多い教科書で紹介されている本、戦争関連の本、宮沢賢治、新美南吉、椋鳩十などの本をまとめたコーナーが常設されており、学習に必要な図書をすぐに利用しやすいよう整備をしている。



3 成果と課題

(1) 成果

特設コーナーの設置により、調べ学習の際にインターネットだけではなく図書資料の利用も増えている。

読書週間は毎年好評で、期間中は多くの児童が図書室を利用し、ビンゴやクイズに取り組みながら、普段手に取らない本も借り、様々なジャンルの本に親しめる取組になった。

(2) 課題

読書量の個人差が大きく、高学年で読書冊数を達成できない児童もいる。本を借りる日と呼びかけたり、担任と一緒に借りる機会を設けたりして、意識的に読書量を増やす取組を考えたい。

1 学校図書館の概要

本校は児童数36名の小規模校である。図書室は廊下と区切られずオープンなスペースとして設置されており、児童が利用しやすい環境である。蔵書率も十分である。読書普及員と協力し、書店風の展示や図書館祭り等のイベント開催をとおして、読書意欲の喚起に努めている。現在は今年度末の統合・閉校に向け蔵書の整理を進めているところである。

2 具体的実践内容

充実した読書活動につなげるには、目的・内容・方法を明確にし、指導者が意図的・計画的に児童を本に合わせることが大切と考えている。そこで、充実した読書活動を推進する手立てとして、本校で研究している国語科の学習と読書を関連させる取組と、取組を支える環境の整備を下記のとおり行った。

(1) 読書と授業を関連させる取組

① 読書活動を取り入れた授業づくり

国語科の授業において、身に付けさせたい資質・能力の育成に沿う言語活動を設定する際に、読書活動と結び付けて単元を構成した。作品の読み比べや資料収集として取り入れるとともに、単元のゴール（第三次）につなげる読書活動（おすすめ本の紹介・ポップ作りリーフレット作り・ビブリオバトル等）として取り入れることで、並行読書や資料活用等で本を手にする機会を増やした。

② ブックリストの作成と運用

ア 授業に関連する本のブックリストを作成し、授業に役立てられるよう関連する本のコーナーを全教室に設置し、効果的に並行読書が行われるよう促した。

イ 年間の必読図書10冊「THE 読破ファイル10」を設定し、目標をクリアするよう取り組ませることで、児童の読書ジャンル拡大をねらった。

(2) 読書環境の整備

① 朝読書体制の共通理解

読書に没頭できる時間を確保するため、読書開始時刻前に本の用意を徹底させるなどして、教職員が取組のねらいや手順を共通理解しながら取組を進めた。

② 目標達成度の見える化

まなびフェスト等により年間の目標冊数を明示し、常に意識して読書に取り組むよう働きかけている。学期途中・学期末に取組の様子を掲示するとともに、学期末に多読賞表彰を行い、本をたくさん読むことを称揚し意欲化につなげている。

③ 連携を生かした取組の推進

ア 読書普及員に、ブックリストの作成・専門的立場からの情報提供・掲示物の作成等を行ってもらいながら、魅力的な読書環境づくりを行っている。

イ 藤沢図書館と連携し、職員の方に、本校のリクエストに沿ったテーマでブックトークを行っていただいた。リクエストは授業単元に関わるものが多く、授業で扱う内容に関連させて本の世界を広げていただいている。

ウ 保護者に、毎日10分の家庭読書の見守り・長期休業中の親子読書実施の協力をお願いし、家庭における日常的な読書習慣の形成をめざしている。

④ いつでも本を手にとれる環境づくり

図書室とは別に、廊下の一区画を利用して「絵本広場」と「調べ学習コーナー」を設置し、いつでも本を手にとれる環境をつくり、本を身近なものに感じさせるようにしている。何気なく本を手にとらせることで、読書へ誘うことも有効な手立てと捉えている。



3 成果と課題

(1) 成果

学習と関連させることで、本を手にとる機会が増え、日常的に読書に親しむことができている。また、殆どの児童が読書を好きと感じ、併せて学習にも生かされていると認識するなど、充実した読書活動ができている様子が捉えられる。

(2) 課題

読書環境づくりにおいて、それぞれの取組が常態化しないよう、児童の実態に合わせて常に改善していく意識をもって取り組む必要がある。

1

本校は、学級数7(1・2年複式1, 3～6年は単式4, 特別支援学級2)全校児童39名の小規模校である。図書館は2階にあり6年教室に隣接している。蔵書数は7110冊である。また、図書館内は蔵書分類や、新刊コーナーを設置するだけでなく、読書活動の充実を目指し企画運営を行っている。読書教育指導達成の数値目標は、多読賞銅賞以上、低学年100%、高学年90%と設定している。

2 具体的実践内容

(1) 読書指導の工夫

- ① 読書量調査を学期ごとに行う。低学年は読んだ冊数、高学年は読んだページ数により各多読賞を設定している。結果は昼の放送で図書委員会が紹介し、表彰している。
- ② 読み聞かせは目的を明確にして行っている。読書ボランティアによる読み聞かせは、低学年の国語教育の発展として実施し、外部講師による読み聞かせは、全校対象(1回)や、希望制(3回)に分けている。
- ③ 全校児童が読書感想文に取り組んだ後、読書の幅を広げさせるためと感想文の書き方の参考のために昼の校内放送の際に、応募作品を該当児童自らが読んで発表している。

(2) 読書に親しめる環境づくり

- ① 図書教育指導員や図書委員児童と相談をして推薦図書を選書し、児童にとって活用し易い図書館整備を行っている。特に、図書教育指導員には教科書関連書籍コーナーの充実や紹介、また、新聞コーナーの入れ替えなども積極的に行っている。
- ② 各学年の教室前廊下に分館図書を配架し市の推薦図書の本棚が設置され、児童が本に関心を持ち手に取り易くなっている。
- ③ 自由読書ファイルを児童に配付し、移動図書「はまゆり号」の本や教室前廊下、学級文庫など児童が読んだ本を記録している。



(3) 図書委員会の活動の工夫

- ① 児童による推薦図書は、推薦理由と合わせて図書館に展示している。
- ② 読書月間の活動は、読書ビンゴ・紅白本借り合戦、大型絵本の読み聞かせなどを行っている。



(4) 家庭読書の推進

- ① 毎日の読書時間の位置づけとして、音読欄と読書欄のあるカードを学年事に作成し取り組んでいる。
- ② 長期休業中は、親子読書の推進を図り、親子で読書に取り組む機会を大切にしている。また、長期休業明けには図書館だよりを発行し、親子読書カードの保護者の感想例を紹介している。

3 成果と課題

(1) 成果

- 児童が多読賞表彰を目指して目標を定めていることや、毎日の家庭読書を記録することにより、図書館に通う習慣化が図られ読書活動に進んで取り組んでいる。
- 意図的な図書館教育を推進することにより、読書指導の活性化が図られ、数値の目標が達成できた。

(2) 課題

- 冊数やページ数の目標は達成できているが、家庭読書の習慣には、児童によって差異があり、改善が必要である。更に、家庭の協力を得ながら読書の楽しさを推進する必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 83 名、8 学級（特別支援学級 2 学級を含む）の学校である。図書室は 2 階の校舎中央に設置されており、どの学級からも利用しやすい環境にある。



2 具体的実践内容

(1) 学級文庫の充実

各学級に市立図書館の巡回バス「かもしか号」と、地域ボランティア「おはなしころりん」からお借りした図書が常時置かれ、子供たちが自由に読むことができる。また、学習に必要な図書を学級単位で貸し出すこともあり、様々なジャンルの本や学習に必要な本をすぐに手に取ることができる環境を作るようにしている。

(2) 図書委員会の取り組み

6 月と 11 月は「読書強化月間」で図書委員会が中心となって企画し、活動している。6 月は、様々なジャンルの本が読めるように図書ビンゴカードに取り組みんだり、おすすめの本紹介などを行ったりした。



「図書委員おすすめの本」コーナーを図書室内に設置し、みんなに借りて読んでもらえるようにした。11 月の図書祭りでは、地域ボランティア「おはなしころりん」による読み聞かせや図書委員による図書クイズ、各学年代表者によるおすすめの本紹介などを行った。

(3) 読書目標の設定

学年毎に目標冊数（低学年 120 冊、中学年 90 冊、高学年 60 冊）を設定し、たくさん本を読むように呼びかけている。学期毎に多読賞の賞状を配布すると共に放送で紹介している。

(4) 親子読書の取り組み

夏休みと冬休みの第 2 日曜日と第 4 日曜日は「親子読書の日」と設定し、同じ本を親子で読んだり低学年は読んでもらったりして、親子で交流する機会を作っている。読んだ本についての感想は「親子読書カード」に記入してもらい、休み明け図書室や学級前の廊下に掲示している。

(5) 読み聞かせの実施

図書ボランティア「クリット」さんによる読み聞かせを定期的に行っている。それぞれの学年に合った本を選んで読んでくださるので、子供たちは毎回楽しみにしている。

3 成果と課題

教室には常時 50 冊以上の本が置いてあり、児童は自由に本を読むことができる。6 月や 11 月の読書強化月間は、図書委員会が中心となって、進んで読書活動に取り組めるように工夫することで図書室に足を運ぶ児童が多くなった。

しかし、高学年になってくると読書に対する意欲に個人差が目立ってくる。また、内容に偏りが見られるようになる。図書室の蔵書は古い本が多く、傷んでいる本もある。児童が興味関心をもって読書活動に取り組めるように図書室環境整備が必要である。

「読書に親しむ児童を育てる取り組み」(読書指導領域)

釜石・大槌地区SLA 大槌町立吉里吉里小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数66名の小規模校である。図書室は1階ホール横にあり、同じくホール横の和室、階段の踊り場でも自由に読書できるようになっている。蔵書冊数は約6500冊である。学年に応じた本を自分で選び、読書に親しむ児童の育成を目指し、より一層の読書の啓発に努めている。

2 具体的実践内容

(1) 学校図書室の充実

開館は月～金の昼休みと火・木以外の業間で、図書委員会が貸出を行っている。貸出は1回につき2冊、1週間借りることができる。図書室内の本は、ジャンル別に配架している。「物語・童話・絵本」は学年に応じた本が借りられるように、棚を分けて配架している。また、国語の教科書関連本や調べ学習に使用する本も学年ごとにまとめて配架している。その他に、季節や行事、読書テーマ、学年に合わせた新刊図書の展示を行い、児童の興味をひくように工夫している。

(2) 学級文庫の充実

担任、児童、図書担当で学年にふさわしい本を選び、学級文庫としている。児童は、朝読書の時間や給食後の待ち時間などを中心に読書している。教室内に本があることで、様々なすきま時間に読書に親しむことができている。

(3) 読み聞かせの充実

読書ボランティア「ひなたぼっこの会」のみなさんによる読み聞かせを年に3回行っている。また、学期に1回程度、朝読書の時間に担任外による読み聞かせも行っている。4月は、図書委員会による1年生への読み聞かせも行い、様々な読み聞かせをすることで多様な本に触れる良い機会となっている。

(4) 図書室イベントの取組

本に親しむことを目的に、図書委員主催で「本は友達週間」を年3回行っている。いろいろなジャンルの本に親しむために、本の題名の頭文字のひらがなでビンゴを実施する等毎年工夫しながら取り組んでいる。また、目標達成者には図書委員手作りのしおりや折り紙をプレゼントしている。合わせて、図書委員による読み聞かせやおすすめ図書の紹介も行い、たくさんの児童が図書室に訪れている。

(5) 親子読書の取組

家庭でも読書を習慣化することをねらいとして、夏と冬の長期休業中の課題として取り組んでいる。親子の感想を記入し、図書便りで紹介している。

3 成果と課題

(成果)

図書委員会の企画や本の展示、読み聞かせにより読書意欲が高まり、積極的に図書室を訪れる児童が増えており、多数の児童が多読賞を達成している。

(課題)

長期休業中の「親子読書」だけでは、家庭での読書の習慣化にはつながっていない。そこで、令和4年度より、全校で家庭学習に読書を位置付けた。さらに図書便りなどを通して、児童が読書に親しむ様子やおすすめの本などの情報を発信し、家庭での読書の習慣化の意識を高められるようにしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校の児童数は215名、図書室は2階にあり、蔵書数は約13,000冊である。図書管理システム「探検隊」を利用して運営している。学校図書館支援員が配置されている他に、図書ボランティアが活発に活動をしており、図書館教育担当教員が連携をとりながら、読書活動の推進を図っている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

月、火（朝会のある日は除く）、水曜日の8:15～8:30まで、朝読書の時間を設定し、全校で取り組んでいる。

(2) 多読者の表彰

学期ごとに多読賞の達成基準を設け、達成者を表彰している。

(3) 図書委員会の活動

1日3回（朝、中休み、昼休み）の貸し出し作業の他に、読書を推奨するために、図書祭りなどのイベントを行っている。今年度は「読書ビンゴ」を行った。ビンゴ達成者には、「しおりプレゼント」、「図書委員体験券」、「本を1冊多く借りられる券」を景品にたくじ引きを企画し、実施した。

(4) 本の紹介

図書館前の廊下にコーナーを設け、毎月、学校図書館支援員がおすすめの本を紹介している。



(5) 新聞の配置

図書館前の廊下に小学生向けの新聞を3紙配置し、児童がいつでも手に取って読んだり、担任が授業等で活用したりできるようにしている。

(6) 図書ボランティア「おひさま」の活動

主に、折々の工夫を凝らした掲示、読み聞かせを行っている。読み聞かせは、週1回、朝読書の時間を利用して行っている。また、6月、12月、2月の各1回、昼休みに「おはなし会」を開いている。読み聞かせだけでなく、手作りのしおりなどをプレゼントすることも行った。



(7) ファミリー読書

「ファミリー読書カード」を作成し、夏休みに家族で読書に取り組むよう働きかけを行った。

3 成果と課題

<成果>

- ・図書ボランティアが作成している掲示は、図書館を親しみやすい雰囲気にするとともに、情操を養うことに一役買っている。また、読み聞かせにより、楽しい時間や心の安定する時間を共有することができている。
- ・図書祭り、児童朝会での発表等、図書委員の活動が、児童が図書館に足を運ぶよい機会になっている。
- ・図書館支援員の働きかけにより、図書館の利用の仕方についての知識を深めたり、読書意欲を高めたりすることができている。

<課題>

- ・読書生活には個人差があることから、どの児童も自分から読書をする習慣を身につけることを目指して取り組んでいきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童56名の小規模校である。平成23年の東日本大震災で校舎が床上浸水し、仮設校舎を経て平成28年4月に現在の校舎で教育活動を開始した。小学校と中学校が一つの校舎に併設されており、教職員は小中連携し9年間を見通した教育活動に力を入れている。小学校の図書室は蔵書数約8000冊と豊富で、児童や学級のニーズに合った蔵書も増やすことができている。

2 具体的活動内容

(1) 年間読書目標冊数

年間の読書目標冊数を、低学年80冊、中学年60冊、高学年40冊と設定し、図書室で借りた本や団体貸し出し図書、家庭読書で読んだ本を読書カードに記録している。学年末に、目標達成者の表彰を行っている。

(2) 朝読書の実施

毎週月・水曜日に朝読書の時間を設定し、全校で読書活動を行っている。

(3) 親子読書

長期休業中に、親子で読書に親しむことをねらいとして行っている。カードに記入してもらいファイルしたものを交流している。

(4) 図書委員会による活動

- ・新刊が入ったときや時季に合わせて、図書委員お薦めの本を展示したり、掲示板で紹介したりしている。
- ・5月に委員会企画として、児童集会で読書クイズやお薦めの本の紹介を行っている。
- ・図書委員会による読み聞かせの回数を増やし、5月の読書週間の時期には担任の先生方による読み聞かせも実施している。
- ・11月に読書イベントとして、読書ビンゴの取組を行った。

図書委員による読み聞かせ



読書イベントの様子



(5) 町立図書館との連携

- ・町立図書館主催の「読書マラソン」に毎年取り組み、読書への意欲を高めている。
- ・保護者の了承のもと全校児童が入学時に「読書通帳」を作り、家庭でも読書への意識を高めるようにしている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・クイズやビンゴ、読み聞かせのイベントなどを行い、児童が楽しんで読書への意識を高められるようにすることができた。

(2) 課題

- ・学校では本を読んでいても、家庭ではメディアが中心になり、なかなか本を読まないという実態がある。今後も家庭への呼びかけや魅力ある蔵書を増やし、読書への意識を高めていく必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童61名の小規模校である。蔵書数は、約8000冊で、学習内容や児童の興味関心、教師側の計画的な選書により毎年多岐に渡る本を揃えている。しかし、古い本も混在しているため、担当を中心に少しずつ選定しているところである。

また、まなびフェストに年間目標冊数を設定したり、毎月一回の親子読書の取組を設定したりするなど、学校と家庭が一体となった読書啓蒙活動を続けている。

2 具体的実践内容

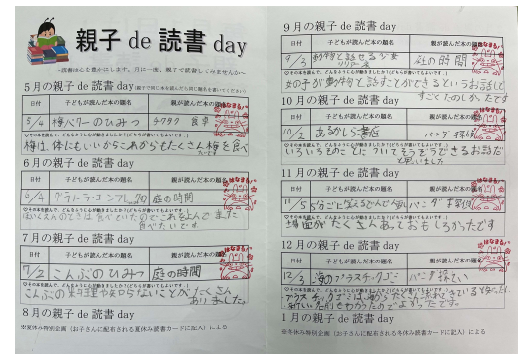
(1) まなびフェスト目標冊数に向けた各学年の取組

1・2年	80冊	3・4年	60冊	5・6年	40冊
------	-----	------	-----	------	-----

これらの目標冊数に向けて、低学年では、読み聞かせを行い、興味を持った本を自分で借りるシステムを作り、中学年では、学級内での読み聞かせや、友達同士で借りた本の交換読み、高学年は、学級文庫の本を充実させたり、個人の借りている冊数について計画的に教えたりするなど、各学年においても意図的・計画的に指導にあたっている。

(2) 親子読書の推進

毎月一回、親子DE読書カードを活用し、親子で読書をする期間を設定している。家庭での読書習慣はもちろんのこと、読書をとおして親子のコミュニケーションの時間につながるものとして実施している。



【親子DE読書カード】

(3) 図書委員会活動

図書委員会の児童は、日常活動の本の貸し出し活動に加え、秋には「図書祭り」として「読書ビンゴ」や「おすすめの本カード」、「紙芝居の読み聞かせ」などの活動を実施し、より読書に親しむことができるように取り組んでいる。

(4) 読み聞かせボランティア「ひまわりの会」

「ひまわりの会」とは、保護者の方々をはじめ、地域の方々にも参加していただいている読み聞かせボランティアのことである。月に1～2回木曜日の朝に、低学年を対象としており、おすすめの本や紙芝居などを読み聞かせしていただく取組を実施している。

3 成果と課題

○学年ごとの目標冊数に向けて、各学年や図書委員会を中心に呼びかけ、積極的に活動を実践することができた。また、保護者の方・地域の方の協力を得ながら無理のない範囲で活動することができた。

△家庭との連携方法の在り方を、親子DE読書カードの活用も含めて検討していく必要がある。



【「ひまわりの会」の方による読み聞かせの様子】

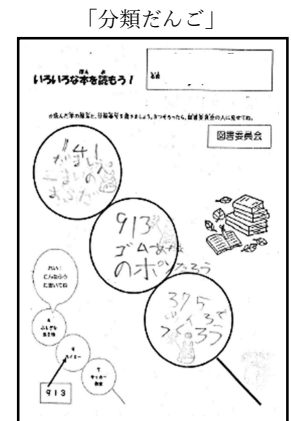
1 学校図書館の概要

本校は児童数215名、12学級からなる。学校図書館は校舎教室棟2階にあり、階段近くに位置しているため、立ち寄りやすい。また、低学年教室と同じフロアにあるので、休み時間はもちろん、読み聞かせや読書・調べ学習などの教科学習において低学年児童が活用しやすくなっている。図書委員会は、常時活動として1日2回、業間休みと昼休みに図書の貸し出しを行っている。また、夏季休業中も貸し出しを行っている。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員会の活動

年間を通して、図書委員が「おすすめの本」を紹介している。また、11月には、図書委員会の企画で「読書まつり」を行った。読書まつりでは、「分類だんご」に取り組み、幅広いジャンルの本を手にとってもらえるよう呼びかけ、多くの児童が来館した。



(2) 「読書の木」の取り組み

学年ごとに年間目標冊数を決め、達したら「読書の木」に名前を書いて掲示した。普段から目につきやすい図書室前に掲示したことと、目標を掲げたことから、児童の読書意欲を高めることができた。



(3) 新聞活用の取り組み

週に1回、朝学習の時間に「新聞タイム」を設け、高学年は一人一部ずつ、低・中学年はタブレットを用いて新聞を活用している。新聞は図書館にも配架しており、気になる記事や、もう一度読みたい記事があった時などに、児童が読み返している。

(4) 図書館支援員との連携

図書委員が選書する際のアドバイスや配架の工夫など、図書館環境整備、蔵書管理の取り組みを協力・連携しながら進めることができた。

(5) 巡回図書の活用

月に1回来校する市の移動図書館では、児童が実際に本を手に取り選ぶことができた。学校には配架していない本もあり、多くの本に触れることのできるよい機会となっている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・新刊の選書に図書委員の意見を取り入れることで、児童が図書館運営に携わっているのだという意識づけにつなげることができた。
- ・読書まつりの企画が、幅広く、多くのジャンルの本に触れるよいきっかけとなった。

(2) 課題

- ・低、中学年に比べ、高学年の読書量が少なくなる傾向がみられるので、学級文庫や図書ラック等を活用し、本を身近に置き、より手に取りやすい環境をつくっていくよう努めたい。

1 学校図書館の概要

図書室は、2階北校舎と南校舎をつなぐ場所に位置している。令和4年3月末日現在、図書現有数は12,907冊である。

2年前からバーコードシステムに完全移行している。地域の方による図書ボランティアの協力をいただき、個人貸出カード作り、購入図書の選定、図書の配置、図書室の飾りつけなどの作業を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 学級文庫

- ① 図書室の本から図書委員が10冊ずつ選んで各学級に学級文庫として設置し、朝読書で活用している。月一回の頻度で本を入れ替える活動を行い、身近に本がある環境づくりの一端を担っている。昼食を食べ終わったらチャイムが鳴るまで本を読むなど、ちょっとした時間を見つけて本に親しむ姿もみられる。

(2) 読書意欲を喚起するための環境作り

- ① 読書のよさを考えることでさらに読書に親しむようになってほしいと考え、全校から読書推進標語を募った。各学年の入賞作品を委員で選び、図書室前に掲示している。
- ② 委員会活動の一環として、図書委員のおすすめの本をポップで紹介する活動を行っている。はがきサイズの大きさのポップを本とともに図書室前に掲示するとともに、これらの本を昼の放送で全校に紹介している。

(3) 図書ボランティアとの連携

- ① コンピューターによる本の貸出を行っており、個人カードを作るなどの年度初めの作業はボランティアの方に行ってもらっている。
- ② 購入図書の選定にかかわっては、生徒の興味関心を喚起し今後の読書のきっかけとなるような図書を選定するようにしている。
- ③ 課題図書や推薦図書、各教科との関連図書など、配置を工夫しながら行っている。



3 成果と課題

- 〈成果〉
- ・ 定期的に学級文庫を入れ替えることで、本を手軽に読む環境を作ることができた。
 - ・ 読書標語やポップを考えてもらうことで、本のよさや本が身近にある生活について振り返る機会とすることができた。
 - ・ 図書ボランティアによる新刊配置や特設コーナーの設定、飾りつけの工夫で、明るく季節感のある図書室となっている。また、廊下掲示版を活用して本やニュースを紹介できた。
- 〈課題〉
- ・ 調べ学習としての機能が果たされるような図書の充実を図っていきたい。
 - ・ ライトノベルだけでなく、幅広い種類の本に生徒の目を向かせていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、学級数8（各学年2・特別支援2）、全校生徒数138名の学校である。図書室は管理棟1階奥にあり、常時開放してはいるが教室からは足を運びにくい場所にある。図書はほとんどがバーコードで管理されており、蔵書数は約6,200冊である。

生徒の図書室利用は主に昼休みであるが、給食当番や歯磨きの時間に割かれると、図書委員や一般生徒が滞在できる時間はせいぜい10～15分程度である。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書

毎朝8:25～32の7分間行っている。持参した本や図書委員の選書による学級文庫から好きな本を読み、一日の始まりを落ち着いたものに行っている。

(2) 学級文庫

図書委員が選書した15冊を1ヶ月ごとの入れ替え制で常設している。また、国語科で選書した授業・教科書関連の図書を学年ごとに常設し、並行読書ができるようにしている。

(3) 委員会活動

常時活動として、昼休みの図書の貸し出し、学級文庫の入れ替えを行っている。また、ポスターや昼の放送を利用して、新刊案内やお勧めの本の紹介を行っている。



(4) 教科との関連

長期休暇前に、国語科において、図書に関する生徒間での情報交流を目的に、ビブリオバトルを実施している。

(5) 図書支援員との連携

町の図書支援員が月に1～2回来校し、蔵書点検や環境整備を行っている。季節ごとに表示やレイアウトを変え、生徒が本を手に取りやすいようきめ細かく対応していただいている。



3 成果と課題

- 一部ではあるが、生徒同士で本を話題にしたり貸し借りし合ったりする場面が見られるようになった。給食の待ち時間などに本を読んでいる生徒も多い。
- ライトノベルは読書のきっかけとしては否定しないが、より質の高い本と出会うための工夫や選書指導が必要である。
- 昼休みが短く図書室の利用に限られるので、学級文庫でできるだけ多くの本、多様なジャンルの本に触れられるよう工夫したい。

1 学校図書館の概要

本校は、1～3年各1学級である。図書室は特別教室棟の2階の奥に位置しているため、学級減のタイミングで、教室棟の空き教室を第2図書室として活用している。今年で3年目になる。昼休みに図書室を利用するのだが、昼休みに生徒会などの活動があると、なかなか利用できないのが現状である。

本校の図書館教育の目標は、以下の通りである。

- ・学校司書と連携を図り、読書活動の啓蒙と図書室利用の活発化を図る。
- ・幅広く良書を選択し、設置することで図書室にある図書の利用が増えるように努める。
- ・図書室の整理を進める

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

全校朝会、学年朝会を除き、毎朝8：15～8：25の10分間、朝読書を実施している。自分が読みたい本を静かに読むことで、落ち着いた雰囲気でのスタートにつながっている。

(2) 教科との連携

図書館司書の先生に、国語の各学年で掲載されている筆者の関連本を購入していただき、貸し出ししている。また、2年生では、職業に関するプレゼンの授業で、図書室の本を活用して調査活動に取り組み、最終的にはパンフレットにまとめた。（国語2年 単元名「魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする」）

(3) 専門委員会との連携

全校生徒の読書活動、図書室の利用促進のために委員会活動として図書当番、図書室の本から学級文庫（移動図書）用の本を選書し、各学級への設置などの活動を行っている。しかし、昨年度、生徒数減少のため委員会の統合が図られ、図書と放送が統合し、広報委員会となり、活動時間の精選が図られている。

(4) 学校図書館司書との連携

隔週で週に1回、学校図書館司書が来校している。季節や用途に応じたおすすめ本コーナーの設置やポスターの作成などの図書室の環境整備、購入図書のアドバイス、県立図書館からの本の貸し出しなどをしていただいている。



3 成果と課題

〈 成 果 〉

- ・朝読書の短時間でも、部活動 等で忙しい生徒や普段本を読む 習慣がない生徒にとっては貴重な読書時間になっている。今後も継続していきたい。
- ・学校図書館司書との連携により図書室の整備改善が進んでいる。魅力ある図書室づくりを工夫していきたい。

〈 課 題 〉

- ・昼休みの利用促進。
- ・各教科と連携しての、調べ学習等での図書室の積極的活用呼びかけ。



「生徒の主体性を生かした読書生活のデザインと横断的指導の実際」

雫石地区S L A 雫石町立雫石中学校

1 生徒の主体性を生かした読書生活単元の考案

令和4年3月から6月にかけて図書委員会では、全校生徒の読書への関心を高めるため、おすすめの本を募り「君に贈るBest My Book」の名称で、生徒が生徒におすすめする本100冊の選定をした。選定された書籍には3年生図書委員がおすすめカードを付け、図書室内に面出し陳列。生徒総会で「借りる際の本選びの参考になる」と好評を博したため、「君に贈るBest My Book」の活動を今後もさまざまな形で発展させ、「君に贈る」活動を継続的活動にしていきたいという意見が委員会内で出された。

3学年国語科担当（図書委員会担当・司書教諭）は、この生徒らの声を生かし、相手意識・目的意識・場面意識が明確な表現活動を言語活動として組み込み、それら国語の学習において身につけた力を、委員会指導および生徒個々への読書生活に横断的に連動する読書指導単元を計画、生徒が主体的かつ有用感を持って学習に臨むことができるよう、3年生国語科「読書を楽しむ」の単元をデザインし実施した。

2 具体的実践内容

【単元名】君に贈るBest My Book ～後輩の君へ～

第1次 単元ガイダンスと選書

ミニ読書会、ブックトーク、ポップ作成の目的、後輩に贈る本の選書

第2次 グループ内ミニ読書会

グループ毎で選書書籍の紹介と魅力、後輩への紹介理由等話す活動

第3次 ブックトークの練習とクラス内発表会

選書書籍のテーマ・内容整理、テーマキーワードに関連がある者同士でグループ編成、ブックトークを行う。

第4次 ポップの作成

ミニ読書会、ブックトークで話した内容を元に、特定の後輩に当てたプレゼントポップを作成、図書室内に陳列（プレゼントポップは1, 2年生個人名入り）

発 展 出前ブックトーク

本活動は年3回実施している今年度最後の読み聞かせ日に図書委員会特別企画として1年生4クラスへ体育祭縦割り組団の3年生の各2～3グループを派遣。出前ブックトークを実施。全体進行は各クラス毎に3年生図書委員が担当。



3 成果と課題

- (1) 生徒の取り組みを出発点とし、生徒の読書生活に還る形での国語科の読書指導である。ポップカードで賑やかになった図書室内の様子や、出前ブックトークなどにより、3年生には読書に関わる活動を後輩に残したいほしいという思いが生まれ、1年生には1読書人としての具体の姿を3年生から学ぶことのできる機会となった。
- (2) 国語科の学習内容を総合単元化した、話す・聞く・書く・読むの重層的言語活動の成果として、学習者のみならず学校生活上に拡張させた横断的学習活動となった。
- (3) 生徒の豊かな読書経験や読書生活に資するために、司書教諭が積極的に図書館や読書を活用した授業を行い、活用指導例を重ねることが望まれる。

(藤井 美幸)

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒 98 名の小規模校である。小さな図書室だが、図書コーディネーターが来校し、図書室の整備をしてくださっているため、生徒が利用しやすい図書室となっている。

2 具体的実践例

①朝読書

8：20～8：30の10分間。学級ごとに教室で行っている。

②読書感想文コンクール

長期休暇の課題。

③図書コーディネーターによる図書室整備

定期的な整備のほか、図書室前廊下に時事や季節を意識したコーナーを作ってもらっている。

④読みたい本アンケート

本を購入する前に、生徒に読みたい本をアンケートで回答してもらっている。タイトルだけでなく、ジャンルからでも希望が出せるようにしている。

3 成果と課題

【成果】

図書室の整備や、リクエストを生かした図書の紹介などにより、生徒が夢中になれる本に出会いやすくなっている。

【課題】

図書コーディネーターと図書学習委員会の連携を図り、図書学習委員会の活動の幅を広げていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数186名、8学級の中規模校である。図書館は1階にあり、蔵書数は約12,745冊である。また、各学年のワークスペースに図書委員が選んだ図書を10冊ほど配架している。

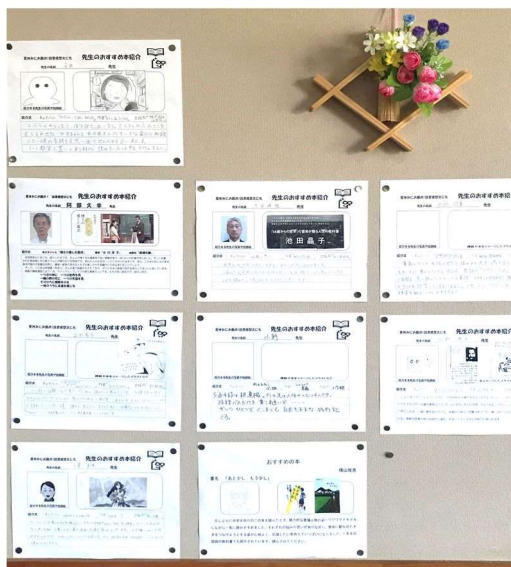
図書委員会による本の貸し出しは昼休みに行っており、読書スペースで読書をしている生徒もいる。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の取り組み

1学年では、毎朝、朝学活前の15分間を朝読書の時間に設定し、読書に取り組んでいる。自分で選んだ本を読んだり、学級文庫の本を読んだりと自分の興味関心に合わせて読書に親しむ時間となっている。

(2) 図書室整備



図書室の入り口に図書委員が作成した「先生のおすすめの本紹介」を掲示している。中学時代にぜひ読んでほしい本を、イラスト、紹介文でまとめている。先生の人柄を伝えるのにも効果的である。

また、生徒が興味を持って本を選べるよう「おすすめの本コーナー」や「新刊図書コーナー」を整備している。

(3) しおりコンクール

図書委員主催で「しおりコンクール」を行っている。全校から「本に関係のあるイラストや言葉」を書いたしおりを募集する取り組みである。多くのしおりが寄せられ、読書に親しむきっかけとなっている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・図書委員が行っている「先生のおすすめの本紹介」や「しおりコンクール」の取り組みが、生徒の読書への関心を高めている。

(2) 課題

- ・図書室を利用する生徒が固定化している。普段、本をあまり読まない生徒が朝読書以外にも読書に親しんだり、図書室を利用するよう、読書意欲を喚起する工夫をしていきたい。



1 学校図書館の概要

本校は、生徒数343名、16学級（うち特別支援学級4）の学校である。図書室は校舎2階にあり、生徒昇降口から階段を上がっていくとちょうど正面に位置している。オープンスペースで、三方に大きな窓があるため、明るく開放的な空間となっている。生徒の目を引くように図書室の入り口側には「いわ100」専用の本棚や定期的に新刊図書を配置している。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

毎朝、8時15分から8時30分までの15分間を朝読書の時間とし、各自で用意した本を読んでいる。

(2) 図書委員会の活動

各学級2名の生徒で構成され、以下の活動に取り組んでいる。

① 図書の貸し出し

昼休みの時間、当番制で行っている。

② 読書アンケートの実施

全校生徒を対象に、図書室の利用や読みたい本など読書に関するアンケートを実施し、今後の活動に役立てている。

③ 長期休み後の読書カードコンクールの実施

全校生徒が長期休みに読んだ本を読書カードに記載する。提出されたカードから読んでみたいと思ったカードを選び、図書室に掲示し、表彰を行っている。

④ 「新聞を読もうDAY」の運営

2ヶ月に1回、生徒一人ひとりが1日分の新聞を読み、興味のある記事のスクラップを行う「新聞を読もうDAY」を実施している。委員はその準備や指示、スクラップブックの管理をしている。

(3) 蔵書の管理

新刊図書が増え、配架が難しくなってきたので図書の廃棄を始めた。担当者の指示の下、清掃時間に図書室清掃担当の生徒が劣化した図書の選別を手伝っている。また、図書購入を数回に分け、新刊図書や話題になっている本をその都度購入し配架した。

(4) 市立図書館との連携

年間3回、市立図書館から生徒が読みそうな本が30冊ほど入ったコンテナが9つ貸し出されている。学級文庫として学級に設置し、朝読書等で生徒が利用している。



3 成果と課題

図書を一括購入しなかったため、2ヶ月に1回は新刊図書コーナーに新しい本を配架することができた。図書委員会の生徒だけではなく、清掃担当の生徒も図書室の整理に携わったことで図書室への関心が高まり、配架の変化に気づく生徒が増えたと感じた。

オープンスペースということもあり図書室を利用する生徒は多いが、それに比べると図書室の本を借りる生徒は少ないと感じる。新刊図書の紹介や図書委員の活動の様子を伝える「図書だより」を配布するなど、全校生徒が図書室の本を借り、読書の幅が広がるような工夫が必要である。

「生徒会図書委員会を中心とした読書推進活動」

北上和賀地区S L A 北上市立東陵中学校

1 学校図書館の概要

- ・生徒数 104名
- ・蔵書数 7890冊
- ・昼休みに生徒会図書委員会の活動により開館している（13：15～13：30）
- ・朝読書（8：15～8：30）を年間通して実施している。
- ・PTAおよびコミュニティスクールを通して図書ボランティアを募集し、蔵書点検等を実施している。

2 具体的実践内容

① 国語科と連携した図書館利用の仕方のオリエンテーション

新入生を対象に、国語の授業時間を利用して、図書館のオリエンテーションを行った。その際、実際に1冊は貸し出しをうけるように生徒一人ひとりが選書した。

② 生徒会図書委員会によるポップの作成およびおすすめ本の紹介

図書委員各自が自分で本を1冊選び、その本についてポップを作成した。朝読書の時間に本を持って各学級を訪問し、ポップを読み上げながら紹介した。そのあとは図書館のおすすめ本コーナーに置いて閲覧・貸し出しをしやすいようにした。さらに本の表紙とポップを図書委員会だよりに掲載し、全校生徒に配布した。

③ 読み聞かせボランティアによる民話・落語の読み聞かせ

市内の読み聞かせをしてくださる方をお願いして、朝読書の時間に各学級1回ずつ読み聞かせを行った。内容は岩手県の民話を1つと落語を1つずつで、全学級異なる内容であった。該当の図書が本校にもあったので、ほかの学級で読み聞かせが行われた内容を紹介するコーナーをつくり、閲覧しやすいようにした。

④ 生徒会と図書委員会による「しおりコンテスト」および「私だけのしおりを作ろう」「読書標語募集」

しおりコンテストを実施し、応募作品のなかから全校生徒による投票で1～3位を決めて表彰、3位までのしおりについてはコピー・ラミネートをして図書館の利用者がもらえるようにした。

私だけのしおりを作ろうでは規定の大きさ内に自由にデザインしたしおりを図書委員がラミネートして作成者に返却し、利用できるようにした。

読書標語募集では、応募作品を図書館内に掲示した。

⑤ 来館者数調べ、貸出冊数調べ

昼休みの開館時間に各学級何名が来館しているか、貸し出しは何冊であったかを1週間程度にわたって調べて昇降口に掲示した。また、学級の帰りの会で図書委員がその日の自分の学級の来館者数・貸し出し冊数を発表し、意識付けを行った。

⑥ 図書委員会による図書館の飾り付け

季節に合わせて折り紙などを利用した図書館の飾り付けを行い、図書室の雰囲気をよくしようと努力している。（ハロウィン、クリスマス、お正月）

3 成果と課題

- ・読書への関心が高まり、図書館の利用者や貸し出し冊数が増えた。また、自分で購入して本を読む生徒を増えているように思われる。
- ・図書館を利用する生徒が固定化する傾向にあり、1年間で100冊以上の本を借りて読む生徒がいる一方で1冊も借りていない生徒もいる。

1 学校図書館の概要

本校は生徒数 400 名、学級数は 16（特別支援学級 4 含む）の中規模校である。

学校図書館の蔵書数は 12,091 冊であり、昼休みのみ貸し出しを行っている。図書委員会の役割に貸し出し作業があり、図書カードを使用しながら貸し出しや返却作業を行っている。

司書教諭の資格取得教員は 2 名（音楽科、社会科）である。両者とも学級担任ということもあり、書架整理の時間を取ることが難しく、月に 1 度来ていただく金ヶ崎町立図書館の方々が学校支援作業を月 1 回行っている。書架整理や背ラベル貼り、新着図書登録などをしていただいている。

2 具体的実践内容

（1）朝読書

毎朝、8 時 20 分から 8 時 30 分までの 10 分間を朝読書の時間としている。各自で用意した本か図書館の本を読んでいる。各学級の図書委員が運営している。

（2）委員会活動

各学級男女各 1 名、計 2 名の生徒で構成されている。

図書当番以外に行う委員の活動はおすすめ図書の紹介である。図書委員が図書室の本を 1～2 冊選び、学級であらすじを紹介する。各学級で紹介した本を学年でまとめ、その中から 1 冊学年として紹介する本を選び、図書委員長が放送で 3 冊あらすじを紹介している。

3 成果と課題

〈成果〉

本紹介は、図書委員が選んだ本であり、生徒の目線で選ばれていることもあって、図書館利用数を増やすきっかけになっている。

図書館からの支援作業があることで、蔵書管理が成り立っている。



〈課題〉

夏休みや冬休みなど、長期休み前に全校生徒への貸し出しを行う時しか図書室を利用しない生徒がおり、よく利用している生徒は限られている。

漫画が多く入っていることもあり、漫画を読みに来る生徒が、他の本へ目を向けていくようになれば、良書を読む生徒が出てくるのではないかとと思われる。

奥州市のように司書教諭が常駐できれば、図書館の環境づくりに良いアイデアを出していただけるのではないかと考える。図書委員会担当の 1 人が国語科であり、他校の図書室の環境面の情報を聞きながら、できるところから環境づくりを行っていきたい。



1 学校図書館の概要

本校は一関市東山町にある生徒数136名、学級数9（特別支援学級3）の中学校である。蔵書は約8,200冊、運営は読書普及員と図書館担当教員、学習図書委員が中心となって行っている。



2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

朝会の日を除く毎日8時20分から8時30分、読書習慣を育成する目的で朝読書を実施している。生徒は部活動や合唱活動、委員会活動等取り組むべき活動が多くあるので、この時間は落ち着いて本に向かうことのできる貴重な10分間となっている。本は自分で購入したものを読む生徒が多く、図書館から借りたものを読んでいる生徒は1割程度である。

(2) 「学習図書委員」による委員会活動

毎日昼休みの13時15分から13時35分の20分間が、生徒が図書を借りることのできる時間であり、その貸出をするのが学習図書委員である。委員は本好きの生徒が多く、貸出業務や蔵書整理を通して図書に親しむ機会となっている。また、「委員おすすめの本コーナー」によって委員の図書を紹介し、一般生徒の利用を促している。

(3) 国語科との連携

国語科では新入生を対象に「図書館オリエンテーション」を行っている。利用の注意やNDC分類に基づいた配架について説明し、小学校とは異なる雰囲気 of 図書館を身近に感じてもらえるようにしている。また、1年生では地域図書館の司書を招いて「ブックトーク」を行い、様々なジャンルの図書に興味関心を広げるように努めている。



(4) 読書普及員との連携（図書館整備、地域図書館との連携）

本校では、週2回計8時間勤務する読書普及員が、図書館担当教員と相談して図書購入や選書、図書館の環境整備を行っている。館内に季節や学校行事に関連したテーマコーナーを設置したり、地域図書館から毎月30冊の図書を借りてテーマ展示をしたりして、生徒が気軽に本を手にとることができる、親しみやすい図書館を目指した環境整備に努めている。



3 成果と課題

<成果>

- ・10分間の朝読書は、生涯にわたって本に親しむ姿勢を育む貴重な時間となっている。
- ・教科における図書館利用は、学びを促進するよい機会となっている。
- ・委員会活動や読書普及員による図書館の環境整備は、本校図書館運営の要となっている。

<課題>

学年が上がるにつれて図書の貸出冊数が減少する現状がある。今後は図書館の環境作りに一層努めるとともに、生徒や教職員が読んだ本を紹介したり授業で図書館を利用する教科を増やしたりするなど、機会を捉えて多くの人に図書館に関わってもらうような活動を行う必要がある。そして、日頃から読書に親しみ、生涯にわたって読書習慣を身に付ける土台を築いていきたい。

「学校図書館の利用数増加を目指して」

陸前高田地区 SLA 陸前高田市立高田東中学校

1 学校図書館の概要

本校は、平成 23 (2013) 年度に広田中学校、小友中学校、米崎中学校の 3 校が統合し、高田東中学校として開校し 10 年目を迎えた。平成 28 (2016) 年に新校舎が完成し、同年度の 3 学期から、新校舎で生活している。今年度の生徒数は 171 名、普通学級 6、特別支援学級 2 の 8 学級の学校である。

図書館は 2 階にあり、普通教室から近い場所にある。昼休みに図書委員会により、本の貸し出しを行っている。蔵書は約 13000 冊である。陸前高田市教育委員会の図書教育指導員が月に 1 回程度来校して下さるので、蔵書の整理・管理、新刊の受け入れ、廃棄本の選書などの協力をいただいている。

2 具体的実践内容

(1) 全校での朝読書の取り組み

朝の短学活前の 15 分間を読書の時間とし、本にふれる機会をつくり、落ち着いた態度で読書ができる時間を保証している。

(2) 図書委員会の活動

①月曜日～金曜日の昼休み、図書館の開館と本の貸し出し及び来館者数の集計と紹介。

②学級文庫の設置

図書委員が、学級の人に読んでほしい本を毎月 20 冊選び、学年スペースに配置している。手に取りやすい場所にあるため、朝読書の時間に利用している生徒が多い。

③全校生徒、職員による選書、「読みたい本アンケート」の実施

業者の協力により、おすすめの本や授業で使えるような本を実際に持ってきていただき、図書館に置いてほしい本、読みたい本を生徒、職員に選んでもらった。

また、全校生徒に、今年度購入してもらいたい本のアンケートを実施した。職員にも生徒に紹介したい本や授業で使用したい本の希望を取り、購入の参考とした。

④図書便りや POP を通じておすすめ本の紹介

月に一度、図書だよりを発行し、図書委員のおすすめ本や来館者数を紹介している。また、3 年生のおすすめ本とともに、各自が美術の時間に作製した POP を展示した。

(3) 図書教育指導員との連携

図書教育指導員が市内の小中学校を回り支援を行っている。小学校の図書館にどのような蔵書があるか把握しており、学校図書館においても小中の連携ができていると感じる。

3 成果と課題

・3 年生のおすすめ本を展示した頃から、図書館利用者数が増え、貸出数も増加した。視覚に訴えた展示は有効だった。

・朝読書の時間に学級文庫を利用し、その続編を図書館に借りに来る生徒があり、図書館利用促進につながった。

・さらに利用者数を増加するために、委員会活動として、新刊やおすすめ本の紹介、図書館に足を運びたいようなイベントの企画を考えていきたい。

「読書意欲の喚起につながる環境の整備」

大船渡地区SLA 大船渡市立東朋中学校

1 学校図書館の概要

本校は生徒110名からなる学校である。学校図書館は2階にあり、書架は部屋を仕切るように作られているが、比較的入りやすい空間となっている。年間を通じて朝読書を実施している。蔵書は、今年度は生徒の興味関心を基に購入したが、絵本から話題の本まで幅広く年齢に対応したものを取り入れている。貸し出しは昼休みに行い、図書委員会が当番を決めて行っている。また、移動図書館の本を図書委員会の生徒が選定して各学級に設置しており、月毎に入れ替えを行っている。

本校には市から読書ボランティアが派遣されており、必要に応じて蔵書管理・整理や廃棄の補助の他、ブックコートかけや掲示装飾等の補助等を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 読書センターとしての機能の充実

生徒が興味・関心を持つような本を、面を出して置き、ポップをつけて紹介している。季節や行事、時事問題、話題になっている本などの特集スペースを設け、読書の意欲の喚起を図っている。また、「いわ100」にある本や防災関連図書のコーナーを独立書架として設置している。

(2) 学習・情報センターとしての機能の充実

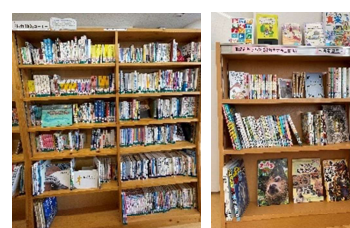
様々な授業に対応できるよう、配架の工夫を行っている。例えば、総合的な学習の時間で取り組むキャリア教育や防災・復興教育に関連する資料をまとめて配架し、職場体験に向けた職業関連の図書や地域に関わる図書等の充実を図るなど、情報を取り出しやすい形の配架を心がけている。また、授業の資料としての戦争に関わる本、岩手の文学に関わる本等も、スペースを設けて配架している。

(3) 配架・掲示の工夫

おすすめ本（生徒・教師）の紹介コーナーやポップの作成、「今月の特集」コーナーの設置を行っている。季節を表す言葉や月の異名、二十四節気等の紹介をし、言葉の豊かさや美しさを感じられるよう工夫を行っている。また、面出し配架をし、生徒が手に取りやすい環境づくりに努めている。配架も分類別に行ってはいるが、本を検索しやすいような配置にしている。

(4) 読書ボランティアの活用

書籍の受け入れや廃棄の他、「いわ100」コーナーの設置、教科書関連図書をまとめて配架する等のサポートをお願いしている。また、配架の工夫についてアドバイスや、ブックコートかけやラベル貼り等もご助力いただいている。



3 成果と課題

【成果】…掲示の工夫により、生徒が興味をもった本を探しにくることが増えた。また、面出しにより、その本に興味を持つ生徒が増え、面出しの本から先に借りられるようになった。配架の工夫により、生徒自身が探している本が見つけやすくなった。

【課題】…昼休みしか貸し出し時間が設定できないので、空いた時間に本を借りたいと思っても、借りに来られない生徒がいる。貸し出しの時間を工夫する必要がある。また、特定の生徒が借りることが多いので、多くの生徒に興味を持たせるような本を購入整備するなど、より一層の工夫を行う必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、学級数9（特別支援学級3含む）、生徒数128名の中規模校である。図書室は2学年の教室がある校舎3階にあり、主に昼休みに開館している。

2 具体的実践内容

（1）図書の購入から受入れまで

- ① 生徒に読ませたい本を教職員に選んでもらったり、話題の図書の情報収集を行うなどして、購入図書を選定する際の参考にしている。
- ② 国語の教科書で紹介されている本や「いわて中高生のためのおすすめの図書100選」で紹介されている本を積極的に購入している。

（2）朝読書の実施

- ① 8：20～8：30の10分間、全校で朝読書を行っている。
- ② 読んだ感想や印象に残ったことを「読書記録カード」に記録している。

（3）図書委員会の活動

- ① 昼休みに本の貸し出しを行う。
- ② 本のPOPを作成し、本の紹介をする。
- ③ 「Welcom図書室」長期休業前の2週間前から休業中に読む本の貸し出しや図書室の利用の呼びかけをする。

（4）ビブリオバトル（書評合戦）

- ① 読んだ本の中から1冊を選び、夏休み明けに各学級の予選を勝ち抜いた2名（計12名）で決勝戦を行う。
- ② 観戦者（審査員）が発表を聞いて、読みたいと思ったものに投票し、その得票数で賞を決める。

3 成果と課題

（1）成果

- ① 朝読書により、短時間ではあるが1日の中で読書をする時間を確保できている。
- ② 新刊図書に興味をもつ生徒が増えた。
- ③ ビブリオバトルの取り組みを通して、日常の中でも生徒同士または生徒と教師との間で、本についての話が交わす場面が見られるようになった。

（2）課題

- ① 生徒全体の読書冊数は減少傾向にある。一人ひとりの生徒の読書意欲を喚起する方策を模索する必要がある。
- ② 名作と言われる作品の読書にも取り組めるよう作品紹介の工夫を図っていきたい。

1 学校図書館の概要

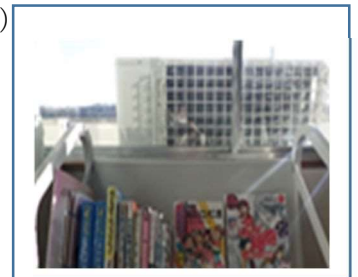
本校の図書館教育の重点目標は「学ぶ意欲を高める学習センター」「情報提供となる情報センター」「豊かな心を育てる読書センター」として、読書活動を推進していくことである。生徒たちの読書意欲の向上のため、学校図書支援員、生徒会の図書委員会により、購入希望アンケートや季節ごとの図書室の装飾などの様々な工夫をしながら学校図書館を運営している。また、今年度から全学年を対象に図書室の利用ガイダンスを行った。

今年度行った「令和4年度岩手県子どもの読書状況調査」の結果、対象学年の一月の平均読書冊数は3.9冊であった。そのうち学校図書室を利用した本の冊数については1.6冊であった。岩手県の目標としている中学生の読書冊数は達成しているが、ほとんどの生徒が自分で購入した本を読んでいる。重点目標の「情報提供センター」としての役割を果たせるように今後、工夫が必要である。

2 具体的実践内容

① 「朝読の機会」

- ア 朝読書は朝会があるとき以外、基本的に毎日行う。(8:20～8:30)
- イ 昼休みの貸し出し。(13:10～13:30)
※一度の貸し出しは1人2冊まで、貸し出し期間は2週間。
- ウ 長期休業前は一度の貸し出し冊数を増やし、長期貸し出しを行う。
- エ ブックトラックを各学級に配置し、学級貸し出しを行う。



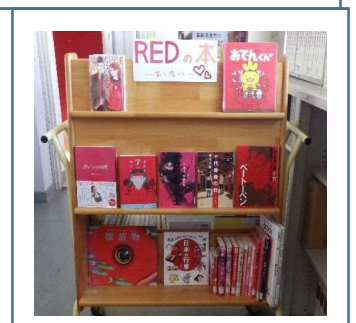
② 「学校図書館の利用向上のための工夫」

- ア 図書支援員の方からの紹介本のコーナーを設置。
話題の本や、季節に関係する本を紹介しており、生徒に好評である。
- イ 新刊図書を図書室入り口に展示。
- ウ 全校生徒に購入希望アンケートを取る。



③ 「図書室の環境整備」

- ア 蔵書点検を行い、本の廃棄などをスムーズに行っている。
- イ 図書室利用後は遮光カーテンを必ず引き、紫外線による本の劣化を防いでいる。
- ウ 季節ごとに装飾をし、図書室の雰囲気に変化をつけている。



3 成果と課題

- 購入希望アンケートを取ることで、生徒の興味のある本を揃えることができた。その結果として、図書室利用者が増えた。
- 図書支援員や図書委員会による環境整備で、昼休みに学習場所として図書室を利用する生徒が増えた。
- 図書室利用者が増えたことで、利用マナーに関する問題が出てきた。初期のガイダンスだけではなく、定期的に生徒に周知させることが必要である。
- 過去に購入した同題名の本などが大量に見つかった。これらの廃棄をし、本棚が有効活用できるように環境整備を進めていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は全校生徒29名の小規模校である。図書室は2階にあるが、台風10号の影響で図書室の天井から雨漏りが確認されて使用不可となった。そのため、近くにある視聴覚室を代替りの図書室として利用している。現在、図書室の整備は町立図書館の方々に手伝っていただきながら進めている。また、PC室には産業に関わる本等を設置しており、図書室の役割をもつ部屋が3つある。昨年度はアンケートを実施して、学習方法や悩みに関わる本や多様性についての本、また、生徒の希望に沿った本を購入した。

2 具体的活動内容

(1) 朝読書の実施

毎週3日間（月・木・金）に朝読書の時間を設定し、8:15～8:30までの15分間、読書活動をしている。

(2) 学習委員会の活動

ア 読書の日

毎週2日間（木・金）を家庭で本を読む日に設定し、最低10分本を読む活動を行っている。

イ 読書の木

黄緑色のカードに読んでいる本のタイトル、作者、読んだ感想などを書いて、木の幹が描いてある画用紙に貼っていき学年毎に一本の木を完成させる活動。毎週火曜日にカードを回収している。

ウ 読書リレー

学年毎に読んだ本のページ数を記録し、すごろくの完成を目指す活動。学習委員がオリジナルのデザインを考え、塗り進めていくと絵が完成する仕組みになっている。

エ 「学習委員会だより」の発行

学習委員や教員のおすすめの本を紹介している。

(3) 町立図書館との連携

団体貸し出し図書「かもしか号」を利用し、様々なジャンルの図書に触れている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・学習委員が主体となって読書推進運動を行っている。
- ・生徒の興味にあった図書を購入し、生徒が楽しんで読書をする環境を整えることができた。朝読書に自分の本ではなく学校図書を利用する生徒が増えた。
- ・少しずつではあるが、以前使っていた図書館の整備を進められている。ゆくゆくは3つに分散してしまっている図書スペースを一つにしたい。

(2) 課題

- ・委員会の活動として図書の貸し出し運営を任せるのは生徒の負担が大きく、行えないでいる。蔵書管理の面でも工夫しながら図書カード等の取り組みを行いたい。



1 学校図書館の概要

本校の図書館運営の課題は、担当者が単年で担当することが多いため、運営上の課題を次年度の担当者へ上手に引き継いでいないことである。また、通常の学校業務に加え、担当者のみで図書館運営を行うことに限界を感じる場面もある。このような課題を感じている折に、令和3年度岩手県学校図書館教育研究大会胆江大会での発表の機会をいただいた。研究主題との出会いは、学校図書館運営を変革していくきっかけだと感じ、副題にある「地域の人的・物的資源を利用」「地域社会との共有・連携を図る」の2点に着目し、本校の実践が動き出した。

2 具体的実践内容

- (1) 組織づくり
- (2) 田野畑中学校図書館の目指す姿の共有・熟議
- (3) 具体的な活動
 - ・ 除籍の作業
 - ・ 蔵書の整理
 - ・ 資源の有効活用
- (4) 田野畑中学校図書館の目指す姿へ向かって
 - ・ 今後の展望



3 成果と課題

(1) 成果

ア 本の活動をきっかけに、村に点在している【学校】・【村教育委員会】・【地域学校協働本部（以下：協働本部）】の組織としての繋がりをつくることができた。

イ 数年間、手付かずでいた書籍の除籍作業を協働本部に依頼し、進めることができた。

ウ 蔵書整理で除いた書籍が村の図書館でほしい本であったため、廃棄されずに活用された。

エ 書籍の整理や図書館の環境づくりを組織的に行っていることで、気付いたことやアイデアがどんどん反映されている。

オ 組織で学校図書館運営を行えるので、担当者だけで運営を行わなければならないという気持ちの負担感が減った。

(2) 課題

ア 蔵書の整理への継続的な人的・物的な支援が必要である。

→このことから、これからも村教育委員会や協働本部との連携が必須であると言える。

イ 委員会活動を中心とした、生徒自身の主体的な活動も必要である。

ウ 学校図書館の環境は整いつつあるので、今後は読書活動も充実させていきたい。

- ・ 学習指導要領 国語編との連携、活用
- ・ 学校全体としての朝読書の取り組みを継続

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒38名、5学級(特別支援学級含む)の学校である。図書室は1階の生徒玄関前にあり、生徒も職員も利用しやすい場所に位置している。昼休みは毎日開放しており、図書委員会が貸出・返却や整備を行っている。また、令和3年度から地域コーディネーターやボランティアと一緒に、ラベルの貼り替えや図書室の装飾なども行っている。蔵書数はおよそ5,200冊あり、いわ100コーナーや新刊図書、企画展示などを配置している。

2 具体的実践内容

(1) 図書室の利用推進

ア 図書室利用の割り当て

朝読書の時間に月1回程度、学級ごとに図書室利用を割り当て、図書室の本に親しむ機会を作っている。普段あまり図書室を利用しない生徒も、興味のある本を見つけ集中して読書する姿が見られる。

イ 図書委員会による推進

図書委員会は、昼休みの本の貸出・返却、新刊図書の受け入れ、本棚の整理整頓、おすすめの本の紹介やポップづくりなどを行っている。おすすめの本は、イラストで紹介したり本を展示したりすることで、興味を持って手に取る生徒が多い。

(2) 地域との連携

ア 地域コーディネーターや読書ボランティアとの連携

地域コーディネーターが週に1~2日来校し、主に図書室の環境整備を行っている。読書ボランティアと一緒に季節に合った装飾をしたり、様々な企画を考えて展示したりするなど、明るく居心地の良い空間を作っている。また、2学期から月に1回程度読書ボランティアによる読み聞かせを行っている。朝読書の10分程度であるが、学級に応じた本を選定してくださり、子ども達は楽しみにしている。

イ 久慈市立図書館支援事業の利用

今年度は、久慈市立図書館長に來校いただき、教員・地域コーディネーター・読書ボランティア・図書委員会を中心に3回の講義を実施した。1回目は魅力あるポップづくりについて、2回目は破損本の修理や手入れについて、3回目は図書室の配架について講義いただいた。さまざまな知識やアイデアを共有し、環境整備の充実に繋げることができた。

ウ 移動図書館の利用

毎月2回移動図書館車のしらかば号が巡回で来ている。その中から各学級の図書委員が、おすすめの本を10冊借りて教室に設置している。

3 成果と課題

(成果)

本を読む環境が整ってきていることで、読書に親しむことができている。また、学校と地域が連携しながら、様々な視点で読書活動を推進することができた。

(課題)

昼休みは他の活動と重なることがあるので、利用者を増やすための工夫がさらに必要だと感じる。古くなった本の除籍作業を進め、新しく正しい情報が得られる書籍を増やしていきたい。



新刊図書、企画展示コーナー



季節を感じる装飾



ポップの掲示

1 学校図書館の概要

本校は生徒数 62 名の小規模校である。学校図書館は、各学級がある本校舎とは別の北校舎 1 階に位置しており、町立図書館の 1 ヶ月に 1 回の訪問支援を受けながら、図書館担当や図書委員の活動のもと運営を行っている。図書の貸し出しは昼休みのみであり、決まった生徒がよく利用している。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

学校行事や生徒会行事、定期テスト等を除き、毎朝 10 分間の朝読書を行っている。自分で用意した本や町立図書館の巡回図書による学級文庫を利用し、落ち着いた雰囲気を読書をしている。

(2) 町立図書館との連携

町立図書館から 1 ヶ月に 1 回訪問支援を受け、本の企画展示や一戸町の話題が掲載された新聞記事の掲示を行ってもらっている。また、本の購入や受け入れに関わる諸作業、3 月に行う蔵書点検でも協力を頂いており、大変助かっている。

(3) 図書委員会の活動

学校図書館の利用者を増やし、読書活動を盛り上げたいという願いから、「図書館へ行こう week」、「本を読もう week」「ビブリオバトル」「全校朝会での本の紹介（ブックトーク）」など、多くの企画を立ち上げ実行できた。特に、全校朝会では、ほぼ毎回自分たちでテーマを決めて紹介したり、全校生徒のおすすめの本を紹介したりと、積極的に行う事ができた。



(4) 授業と連携した取り組み

1 年生「本のポップを作ろう」（東京書籍）では、夏休みに書いた読書感想文と関連させて本のポップを作成し、町立図書館主催の「pop コンテスト」に出品した。夏休みに読んだ本であり感想文も書いていたので、イメージを広げやすく、意欲的に取り組むことができた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・図書委員会の様々な企画や活動により、一般生徒の学校図書館に行こう、本を借りようという意識の向上が見られた。
- ・町立図書館の巡回図書、訪問支援、図書館業務の支援等により、図書館担当の負担が減ったり、委員会活動の充実につながったりした。

(2) 課題

- ・学校として読書を奨励するために今後も朝読書の時間を確保していくが、家庭でも読書の習慣が定着するように、保護者とも連携しながら取り組んでいく必要がある。

令和4年度
学校図書館の活用にかかる
実践事例集

令和5年3月1日発行

岩手県学校図書館協議会
〒020-0851 盛岡市向中野二丁目39番27号
(盛岡市立向中野小学校内)

TEL 019-635-8510

FAX 019-635-8512

E-mail info@iwate-sla.jp